



肥育牛の鼓脹症対策

～第一胃発酵の安定を心がける

●鼓脹症の症状

鼓脹症は肉牛肥育の中で最も多く見られる疾病で、腹部、特に左側上臍部（最後肋骨の後ろ上部）がガスのために膨れ上がる。食欲、反すう、第一胃運動がなくなり、腹部の脹れがさらに大きくなると呼吸困難、血行障害が見られ、死に至る場合もある。

鼓脹症には泡沫性鼓脹症（マメ科牧草性鼓脹症）と穀類性鼓脹症（フィードロット鼓脹症）の2種類がある。泡沫性鼓脹症はクローバーが播種された放牧場やマメ科牧草であるアルファルファ（ハイキューブ）を多給した場合に起こりやすく、穀類性鼓脹症は濃厚飼料を多給した場合に起こりやすい疾病である。また、その症状の度合いから急性鼓脹症と慢性鼓脹症に分けられる。

鼓脹症の原因はいろいろ考えられるが、基本的には第一胃発酵異常が起因である。第一胃発酵が異常となる要因としては、①濃厚飼料の多給および粗飼料不足、②第一胃ガスの異常産生、③第一胃内容物の泡沫化、④障害による唾液分泌やあい気反射の減少、などが重なって起こる。特に泡沫化はタンパク質（ペクチン様物質）の過剰やマメ科牧草に多く含まれるリンゴ酸、マロン酸、クエン酸、コハク酸やサポニンが原因とされる。サポニンとはシャボンと語源が同じことでもわかるように発泡促進物質である。なお、イネ科牧草であっても若いライグラス、オーチャードグラスの多給は禁物である。また泡沫化は濃厚飼料の場合でも、微粉砕された粉の多給などにより粘液産生菌の増殖を招き、泡沫化が助長されて起こりやすくなる。

●6つの予防対策

まず第一胃発酵を不安定にさせない飼養管理を日頃から心がけることである。現在の肉牛肥育では濃厚飼料を多給する飼料給与は避けて通れないが、第一胃発酵が異常とならないよう、きめ細かい飼養管理を行う必要がある。具体的には以下のとおりである。

- ①日常の飼料給与は粗飼料から先に与え、濃厚飼料はその後に与える（第一胃内で緩やかに発酵するものから与えて急激な発酵を避ける）。
- ②濃厚飼料を食い込ませる時期はなるべく多回給与を心がける（急激な発酵を避ける）とともに、粗飼料は常に飼槽に残っているように追加給与する。でき

れば反すう促進効果が非常に高い「稲ワラ」を常に与えておく。反すうは唾液分泌を促進し、その唾液はガスを散逸して泡立ちを少なくする効果がある。

- ③飼槽中の濃厚飼料がなくなっている状態をなるべくつくらない。飼槽を空にすると、次に給与した濃厚飼料をボス牛などがド力食いする場合があります、異常発酵の原因となる。
- ④マメ科乾草（ハイキューブなど）を利用する場合は、前述した飼養管理をより徹底するとともに、急に多給しない。
- ⑤配合飼料の切り替えや単味穀類の増給、新たな種類の粗飼料を使い始める場合は、徐々に行う。
- ⑥牛群が落ち着いて寝ているときなど、よく反すうしているかどうかを確認する。

●症状に応じた治療方法

鼓脹症の治療には界面活性剤を内服させる。効果がなるときや急を要する場合は、針で第一胃に穴を開けてガスを抜く。応急的には大豆油や落花生油を200～

500cc 飲ませる方法もある。症状が軽いときには腹部のマッサージ（下から上へ、後部から前へ）、胃のだ動促進剤の注射があるが、獣医師によく相談して対処してほしい。

- ①鼓脹症の牛
- ②套管針（とうかんしん）によるガス抜き
（写真提供：(有)シェパード中央家畜診療所）

